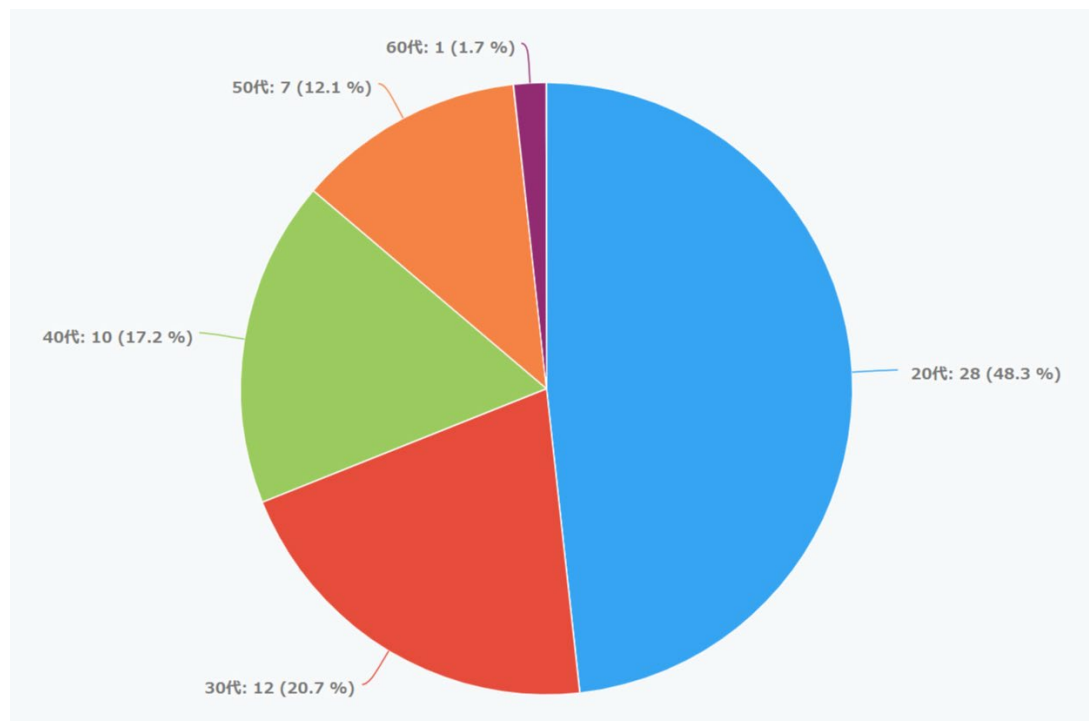


「令和8年度 医学生，研修医等を
サポートするための会」
アンケート結果

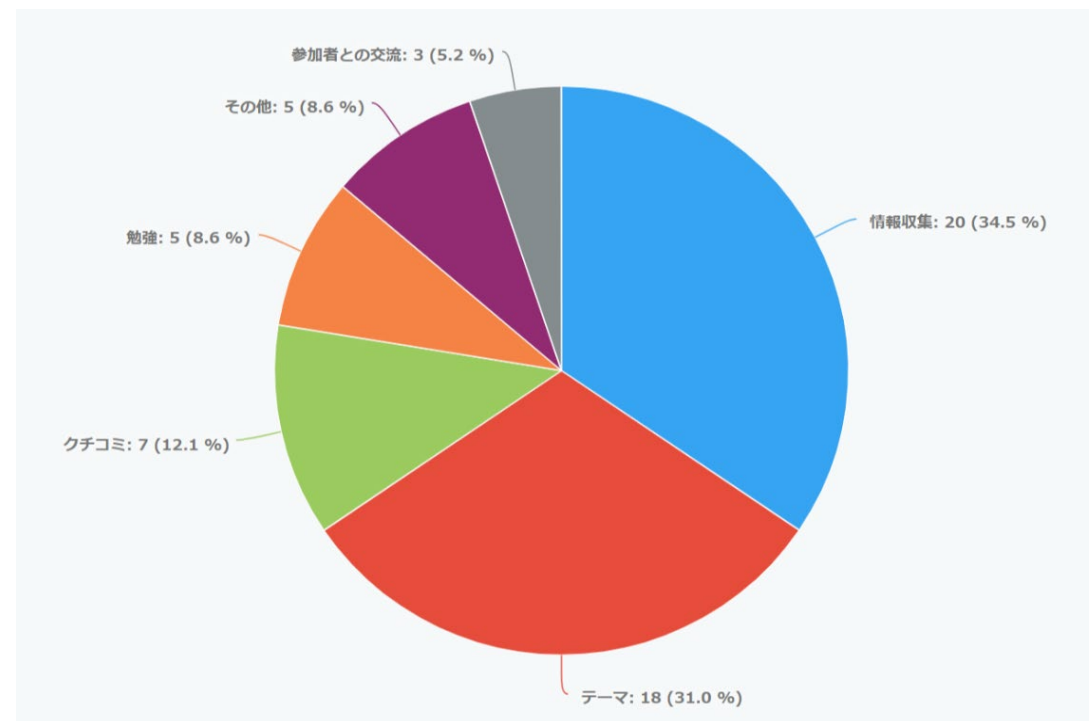
日本消化器外科学会 男女共同参画委員会

- 登録者 350名（医学生・研修医 95名）
- 参加者 103名（医学生・研修医 45名）
- アンケート回答者 58名（56%）
うち、医学生（5・6年生）14名、初期臨床研修医 7名

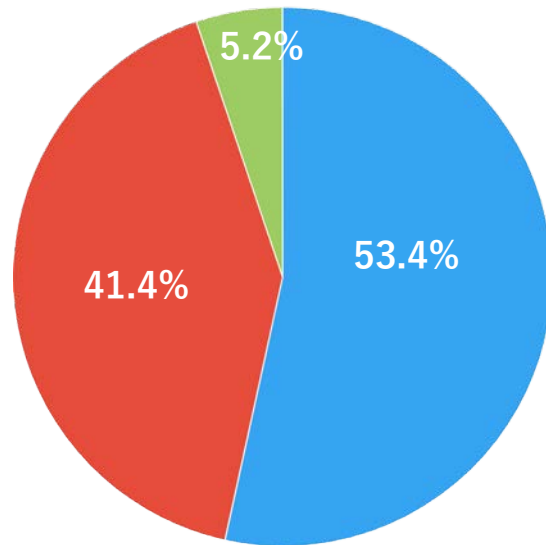
回答者



参加理由

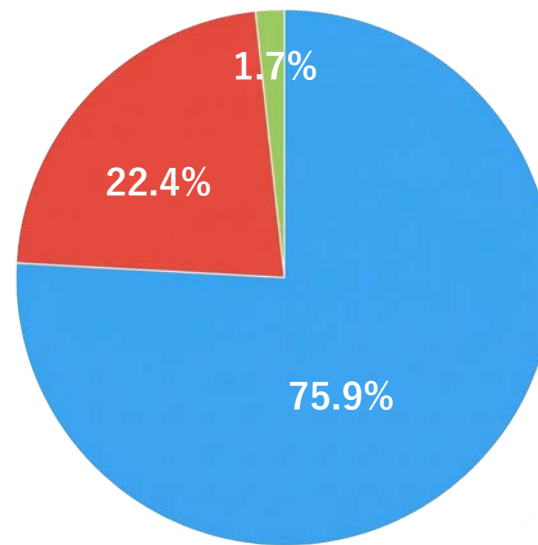


満足度



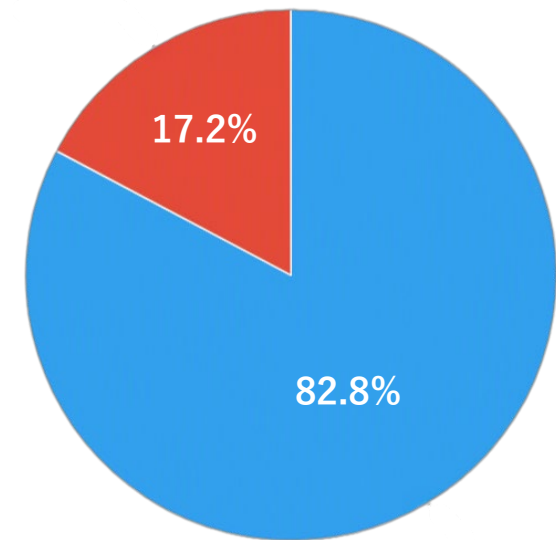
- とても良かった
- 良かった
- 普通
- あまり良くなかった
- 良くなかった

将来の進路を考える上で
役に立ったか



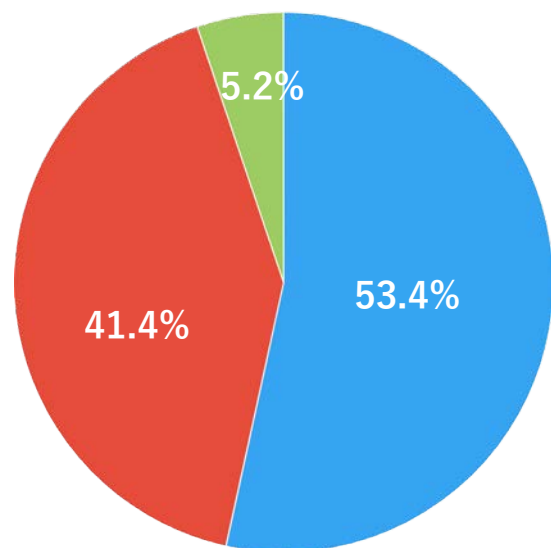
- はい
- いいえ
- どちらでもない

2時間という開催時間の
設定はどうか



- ちょうどいい
- 長い
- 短い

満足度



- とても良かった
- 良かった
- 普通
- あまり良くなかった
- 良くなかった

満足度の理由

消化器外科医の多様なキャリア・働き方の紹介

様々なキャリアを持っている先生方のお話を生の声で聞くことができた。
外科医としての働き方の多様性について考えるきっかけになった。
他の施設で同じ消化器外科として働かれている先生方のキャリアについてお話が聞けて楽しかった。
様々な立場からのお話をお聞きできて自分の将来を具体化するきっかけになった。
複数の先生から消化器外科の良さを聞き、非常に参考になった。

他診療科や施設の情報

他県の若手医師の働き方をしり、消化器外科はやはり大変なのだと感じた。同時に自分の時間も大事にしようという思いを実現している若手もいることが知れた。もう少し早く（定時）に帰って日常生活が送れるようになる未来が見えてくるといいなと思った。

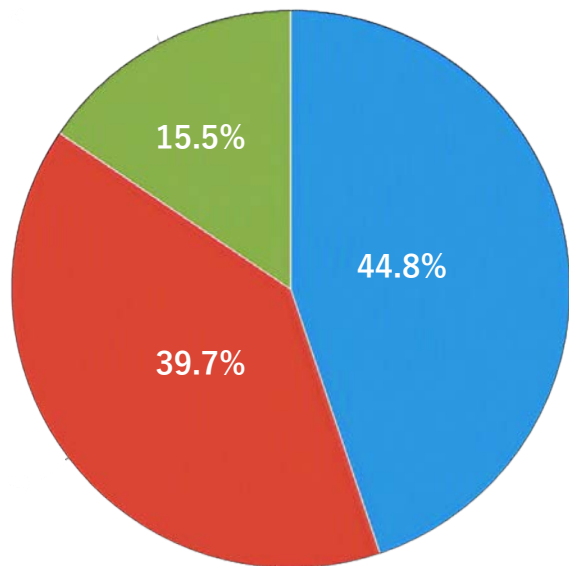
プレゼンのコツや電気メスの使い方など実務に役立つ情報

電気メスの説明やプレゼンの仕方などすぐに活かせる内容だった。勉強になった。
特にデバイスについて知りたいと思い参加し、その目的について達成できたと感じた。
ポリクリを行っている過程で手術を見学することが楽しく、外科にも興味があるため今回参加した。
渡邊先生の電気メスのテーマは実習では聞けない内容で、有意義な時間を過ごすことができた。
上手いプレゼン方法や消化器外科の魅力を改めて知ることができた。

その他

こういう活動があることを知ってよかった。
すべての先生から手術が本当に楽しいという思いがひしひしと伝わってきてよかった。
医師としての働き方に対して先輩医師の話を聞きたかった。
消化器外科学会で聞いた話と同じ内容が多かった。

消化器外科，女性医師支援，
ライフワークバランス，
男女共同参画に対する意識は
変化しましたか



- 意識が上がった
- 少し上がった
- 変わらない

意識変化の理由

ライフ・ワークバランスの重要性の認識、今後の働き方に対する不安の解消

学生の頃は仕事だけに打ち込めたらよいと考えていたが、結婚も現実的になってくると、出産もしたいが外科医としての技術を落とすことになるのが怖くてどうしたらよいかわからなくなっていた。今回実際にお子さんをお持ちの先生方のお言葉も聞いて、男性も女性も積極的に子育てに参加して助け合える雰囲気があれば、気持ちよく両立できそうだなという希望が湧いてきて、励まされた。

ワークライフバランスについて具体的な話が聞けた。

自身が思っている内容はみんなが共通して認識しているのだとわかった。

女性医師の活躍，男女問わない多様な働き方

消化器外科でも女性が多くなってきたことを知り、みんな意識することが大切だと思った。

浅川先生のお話、また、実際に働いている先生方のお話をきいて、多様な働き方について考えることができた。

子育てしながら働いている女性医師や家族時間を大切にしている男性医師のお話を聞くことができた。

現実味のある話

実際の先生の話を受けて少し現実味があった。

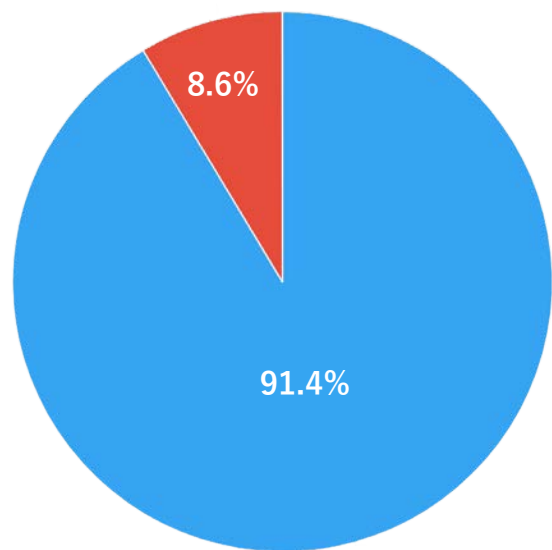
色々な方の働き方を知った。

その他

若手の先生方の体験談を聞いたのは良かったが、実際現場でどのような働き方の工夫がなされているのか、女性医師だけでなく上級医からの意見も聞けるとより意識改革がなされていることを感じるができるように思う。

業界に限らず、課題だと思っている。ただ株主総会があり、常に株主を意識せざるを得ない一般企業との違いを感じる。

今後もこのような活動は必要だと思いますか



- 必要である
- どちらとも言えない
- 必要はない

今後もこのような活動が必要だと考える理由

若手の情報収集・サポートの場

様々なトピックに触れる機会にもなり非常に勉強になる。
学生の間では聞けない良い体験だった。先輩の話聞く機会があると嬉しい。
非常にモチベーションも上がる企画であった。

キャリア支援

進路について迷っている方向けにも非常に有意義と感じた。
どうしてもスペシャリティを極めるという方向にいきがちな中で、消化器外科医としての働き方の多様性をリアルを伝えることは重要。

活動を継続することの重要性

消化器外科医の不足や働き方が課題であるなら、少しでも興味を持てただけのイベントが不要なはずがない。若手のリクルート。
こうした活動によって医療全体の意識改革が可能になってくる。
多くの先生たちの普通になることが働きやすさにつながる。定期的な意識づけが必要。
学会を通じてこのような活動が広がっていることが若手にしてもらいたいのは大事。

その他

消化器外科に興味がある学生、外科に興味があるが悩んでいる学生、など対象を絞った内容にしても良いのかもしれない。
若手への実際の臨床現場のみのリアルだけでなく、ほかの環境でのリアルも見たい。

ご意見ご感想

- 定期的な開催が望ましいと思います。
- 本日は多くの先生方のお話を聞く、貴重な会に参加させていただき、誠にありがとうございました。今回の経験を今後のキャリアにつなげていきたいと思います。
- 今回のご発表で子育てをしながら働いている先生のお話がありましたが、月曜日は１７時まででしたが、１日のスケジュールでは普通に朝の通常勤務の時間に出勤し、夜も１８時半ごろまで働かれていました。それなのに時短のようにしているというお話をされたので、これで時短なのですか？！とびっくりしました。その病院のほかの医師はもっと働いているということでしょうか。全然時短ではないと思うので、負い目を感じるのではなく胸を張ってほしいと思いました。またそう思わせないように環境を変えていくことは大切なのだと感じました。
- コーチングの話がもっと聞きたかった。
- みんなの意識を変えるため、コーチングも大切だと感じます。ぜひ、学会を通して今後もコーチングに触れる機会を増やしていただけると幸いです。
- 学生・研修医参加者が質問しやすい仕組み、仕掛けをさらに検討ください。
- 富山大学附属病院や倉中（倉敷中央病院）で外科医に対して積極的なワーク・ライフ・バランス支援をしている旨、テレビで見たことがある。極端に振れることは危険なのかもしれないが、それらを目指して暗中模索している施設からの発信があってもいいように思う。
- 医療職にはありませんが、勉強させていただきました。貴重な機会をいただき感謝しています。